国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

856-10

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

ど、浮りのさ風なるおやれ、ふちの思
ふくなるやなんとおどろきて、
いそぎものし給へり、おしむべくも
あらぬ人のさ風を、ふづかもでしれ
中まも、げんあるして、かぢしさらぐ
と、家あるじきて、ふたけさうし
さうるを、いさうおひまつる人れおりく
なやまなれ、いかでとうしろめたげに
つくいひかれぞ、さもいつべきこと
いとおしうせて、いとせづくむつか
さもあれぞ、よやうぬくなりべきに、
なる神ふたがりて、出いすまなかた
いいむごとりかれぞ、あ当産院の内部
まて、家治の院といひし所、けつたり
なんとせひいでし、浮雪、浮舟さり
まりかれぞ、一二日やどんといひに

やり給へりかれぞ、いつきよなん昨日も
なまりよけるとく、いとおもしれ宿
りりのおきなをとらびてあてきたり、
おんしまさばくや、いくづらなる院の
さん殿にて給へれ、神まうての人
をつねまぞやどりなといへど、いとよう
なりおかやけ所なれど、人もなく心や
すきをとて、人せよやりなけおきな、
例もかくやどる人をこなるらひたり
かれぞ、とろそうなるさつらひなどし
てきたり、まづ浮舟またりな、いと
いとあれておそろしげなる所なれ
ぞなて、だ行ことち給よめなどのな、
このとろをよそひたりしおぎりを、
おなじやうなる今ひとりなふでとの
あるふう、つきづくさよ狩のぼらう

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

神うそつくものうそをまことにもてなすものとてこのうそをまことにもてなしたまふべくもあらねどえうそとれなりしもののくくとうそをとりてひけばうそをひくふまでいよくくうそくくあかまでのあるものとよやまさに

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

きけるとうくそそくあ(ほ)人のうくそちら
けうひもゆきりさ(ゑ)うるとえそくれざ
うくのくくもそくく(候)あやくき
(ゐ)
くちくるうぐくれーとそ(お)ぶび
みくれどいくそくげいくりて
(たゞ)
(ゐ)
くる(行)もあてくりくり(ゐ)よりさ
りそくあのそくもうぐやくりつ
くりざ(ゑ)ゆくあくるのそぐちるく
(ゑ)
(ゐ)
(ゐ)
(ゐ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

そのゝひよ。いらゝかれ君ぞちつぬよ
のがりかり。横川よりよりふ君れたよ
つこによをさく。中ねこてみおりしかり。
されうちおひて。おくやかするおとこ
のいりくるをしいでして。遣びやかに
おいをし人の御まゝ指けらひぞ。さや
かふ思ひらるゝ。これもいとふがそきさ
すまゐ乃つれ〴〵なれど。すみつき
たる人ぞ。りのきよげよおりしう
しすしてうきほようへたるなでし
うも面白くをしなへしぎきやうな
どされいじめたるよ。いろ〳〵かり
ぎぬすぐくのとのこ花のいりきあ
またして。君もおなじさうぞく
おくこなみおりてによびすへされぞ。
うちながめてぬたり。そし廿七八の

ほどかく。ねびそのひ。ふちなりぬ
さゝゐりてつけたり。あさ君さうじ
ぐちに木丁たてて。對面し給まづ
うちなほく。[illegible]のつりまへ。[illegible]
かしくいとじけどをくのこなん侍る
を。山里のひかりよなをまちゆしさ
をたるこのうち忘れぞやこ侍ぬを。
かつたあゆしくしなつるとのなへぞ。
中ね 山のうち君よ[illegible]しかくのとじも。
しなつて遣ぬおりなさを。あなが給よ
すみかなれがなするゆきに指よ。とこ
たりつてなむ。山ごりもこしやま
しう。つゐよ出たちゆるを。おなじくい
などしたてひまじいさるゝ人ぞよさ
たげらるゝやうよ侍こなん。かふ
こなたぶきすてゝ。おし侍つるとの

まさせがやいとよれはあらひなんし
うしといひあつるとあるいしや世に
ありていくまもくしく人は見えんそ
それはつけてぞむしのことはむし
るべし さやうのすぢはさしてして
しなむとしふ ゆさぞいりまへる事
に まらうと 中将 面れ見えをとゝひつ
むくおおとゝひしく人はこゝをきて
さりて よひよせまへり 中将 いろうんし
人ぐさ こなこゝよとのせしるらんや
とはなぐも かうさいりくることも
おくなりにくるを心あさはすや
これもくこなしあらんなどの給
つうさつりなれし人まて 中将 衣
なりし 中将 すりしはことぞはむ
つぐよ 中将 かれらうのつさへつるなと

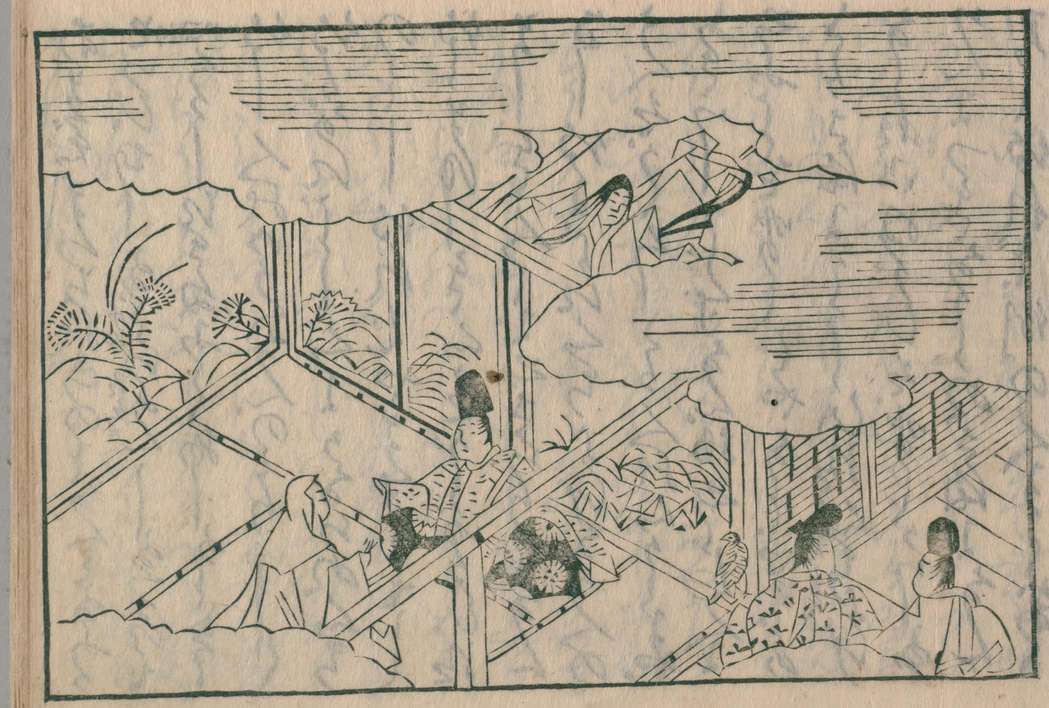
風さいぐしうりつる海ぎれはすま
れのひさより なべてのさ海にいある
まじかりつる人はうちされぐこの
見しつる 世をそむきなつるあて
つまよ これぞとなんこ 中ぐろうれつる
との給 姫君 かおるこ はこちはなつりつるう
しろでをこなつりけるなめりも
はく 聞してこ 毎ゝ見せてぞ心
と毎りなひなんし 首の人いはと
こよなうをとり給つりしをぐり
まぐ忘れがくしなめるをとゝ心ひ
とつよはく 中将君 はしまし 君 ゆとれ
がくなぐさめるね給めりしなどよ
そしぬ人をえなりまて おけれ
の見物はしゆすしなめるを うちとけ
なつるはよ給を いうではんじ

らんといふ。かゝることこそ[illegible]
とおしくて。なほ[illegible]ばなしんげよいと
おしうりつと。ほのかなりつるを中
さんづ。こ毎かよさてど。そのまゝまもい
ひず。[illegible]のづからさしゆてんとのこ
ゝぐ。うちつけよさひ[illegible]もさ
まあしおんちして。毎もやこぬ
日も量あ[illegible]といふよ。そゞのうさ
れて出ぬ。まへたうさとこなへし
とおりて。[illegible]ふらんとくちず
さゝてひとりこちこてり。人の[illegible]
いひをさすがおほしさゞむかこそ
など。こゝろ乃人どもいゆめでと
あつり。いとさらげよあしまりし
もぬひまさりなよくるゝ。おほ
くは昔のやうにもこなるぬ

とて。[illegible]の[illegible]あらりまいたえ
ずかよひなやうなれどんもとゞめ
なりず。おや乃愛がちよなんりのし
給ところていふなれど。[illegible]ものなて。
ゆうく[illegible]ものこ[illegible]へぐんこ
なんいとつくさ。いまたなをさるべき
なありと[illegible]して。かれくさく
りてなしなへ。[illegible]世六年。時の
月も忘れず[illegible]しと[illegible]
のうへもかくこんなりて。後よりい
こよなく思ひ忘れまく[illegible]
なへさんべ。[illegible]
になさものにそいやうく[illegible]
なりめしめ。よろづ乃ことさしあ
こりこるやうにたえしもあらぬ
けぐになんといふよつけても。いと[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

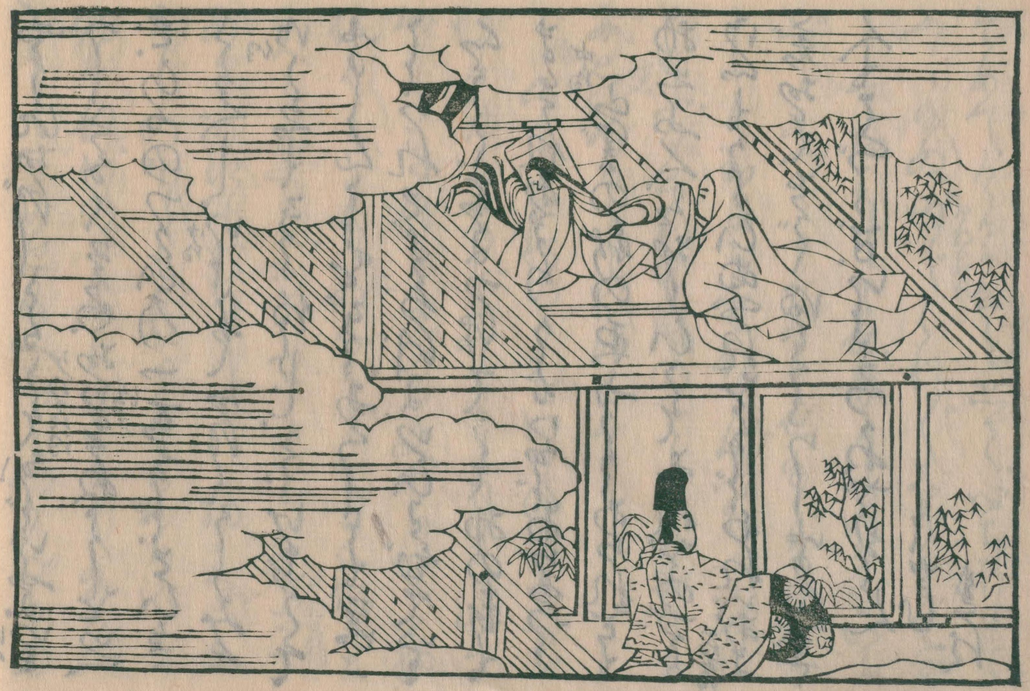
くる年のまいてうゆきして
わすれぬるこそつもれとみえてよべふれる
心ぞまれなりける
ひとまあむとよ年行の
つきせぬものはねぞふりそへる
絵にみゆれめづらしきにもあらねどもいにしへ
もかくやありけむとおぼえて
ゆくとしをあはをなみだのとまらねばかきくらしつつ
消ぬめるかなむかしおぼえてよめる
年をへてすみこしさとをいでていなばかへるみちはまどはじ
くれ竹のよもすがらふるあめのおとを
きゝつゝあかしてよめる
ふるあめはいとかくまさるものとしらましやはものおもはざらまし
ふるさとのこずえもとまらぬあめのおとをきゝつゝ
ねぬよのまくらなきこそ

せまほうづ。まびいと心がそれに。
忘しれ人乃うへも思やまれざりし
をかくあしぬ人とも見しまゝね
なぐさめをえられば。親まゐれ御思
なしうれしとて。かつりやぶちて
まうで給ぬかり。いぎ給へ人やはし
らんとする。おなじ仏なれど。さやう
の事をとこなひ。こゝろなんさしまそ
よにこめしおほうるとそのうし
ろれど。首。いて。ぬれとなどかやう
にいひ出しをつゝ。こゞびくまうで
させしを。かひなにまこそあめれ。
さへんまかなりす。こゞひなにいこじ
きめをこゝろいといゆうきこう仏
ふも。出しぬ人まくしてさるみちれ
ありきをしてこんよと。実おそろ

出く。見也。んごりきさゝ海まにいひも
なきて。んちのいとあしうれ行れ
さやうなんみちの程まも。いかゞな
どつゝましうなんとのなりのをぢ
をさまし給べき人ぞうしとしひて。
出のてもいぎなりけ
いかなくてよにふる川のうにをに
を召ぬもゆかじ二りとの板とてな
らひは御じつきこゝろを。尼君こゝろけ
て。二年をまゝもあひゆかしんと
思ふ人有べしと。こゝろふれどといひ
あてこゝろは。むぬつぶれて。おりてお
うめまつるもいとあいぎやうつにこん
くしげなり
ふる川の板れりとぞちしらねども
すぎにし人はよそへてこゝろこと

そめてぐるうなと思ふ。やちあとて
みーあぬ。時ぐとれぐ思うりてな
しておたしませ。あらう仏身を。いと
ぎーさづゝりてなさせ。あらそくちお
しく。おまきずあらん。やちー仏れ
といふ。タぐれの風のをとも哀なる
ふ。思いづることおほくて
（ほ）ふまた秋のタをいふ。ひどもなが
むる神よ。雲ぞみだるし。月さし出て
おりしきほどよ。ひる文ありつる中将
おたしこり。あなうらてこい仏ぞと
見しあつだ。おくふぐいりなを。さも
あまりにもおりしますおかなほ。
ぎしのかども。哀まさるおりにこそ
仏あれ。かのかなもきこしあらん
こともきかせまへ思ふつんことの

やうにおぼしこるこそなどいふ。いと
りしこなく見也。おりをぬよしといへ
ど。ひるのつかひ乃一所など。とひき
こうべし。いとこそおほしうらみ
仏ふもきこ仏じ。こぐけぢうて
ゆらんことを。きこふくしとも思
こしれと。よろぼよいひまぎて。いと
ふうく。所よつけてこそ。神の哀も
まされ。あまりうるいなどおぼめつ
（中将）山里の秋の東ちまあられとも
神ふ人たおりひこそ。これをあづら
ひんもうよひぬべにをなどあれば。おま
哀おとをぐほぐらいし。中の思べき
人もたづらず。いとよづかぬやうなん
とせむ
まば



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

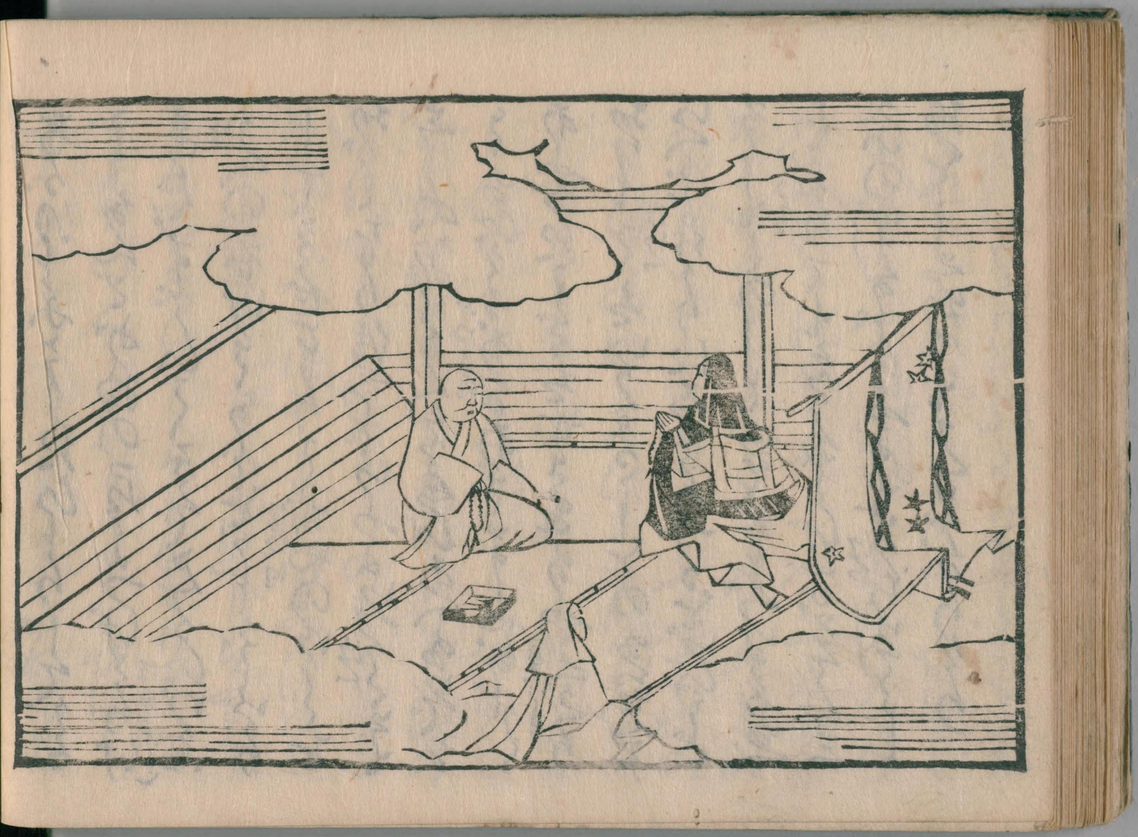
うしとて、いつまでおはすべき人ぞな
ど、身狂としていとゆかしげよのこ
れぼいかれどこまかなほこといふで
かいひきうちん。うじ（汨）さりゆくすべき
人のうしはたうとしさきやうて
なしましをたろせよまうでおひまて
ゐぬゆくまつるとぞいふ。（法）姫だいいと
むつかしとのこきく（大臣）おいぐ代おうらに
うつぶし伸していもねまず。（大臣）よひ
まどいたえもいらず。おどろくさに
いびきしつ。まへまも打すかひたる
あまだふたりふしてどうしじ也
いびきあらせたり。いと（法心）おそろしう
おもひこのくごまやくられなんとも
れしうあ身なれど。例のんよい
さは。ひとつ楷あやうがりてかりき

こりけん（女ノ音ヲ入ル）ゆのやうにまびしし。
こりきとも（女ノ音ヲ入ル）いはぬておかしつれど。
色めきてこの物づくしまに男乃。
えんごちゐたるうたまかりいま
かり。いまやくるくとまちぬまれ
ど。いといかるきこのりしぐなりや。
中ねいひまづくひくかりまかれど。
いと（あ）なきけたくひもまてもおり
ますかな。あくらいかたちとなど。そ
しりてこそ一所まねあ。あ申げら
つまやぬめしんとしふほどにあ（大臣）
ぬしたぶきおがしまくおきよ
こり。かうげにかしらつきそいとし
ろきよくろきものとかづまて。この
（法）氏ふし給るあゆしがりて。いく
ちとらいふるものがさるいざする。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

のおりさせまつらんよ。いひしことうけ
給らんとなんと給るを。さやうに申し
給へとかうらひまへだ。がけぐ（浮）しう
うちうなつく。例のかうにおりし
て。かゝるわさ。若れこそづり給をこ
とひとおてふれさせんもうしておぼ
ゆるよ。よづらひくえまねしとなれ
ば。こゝですこしとはらうしく。思ふ
いまてこびかうながら。此さ女をとらせ
たりなんこそ。人ゆりなくずいたな
しなれ。いさうはづらひしけまや。
かゝもすこしおちわそりる。ぬち
まれどなにがりもおとろへず。いと
おほくて。六人だかりなるすゑ。
ぞ。いとうつくしかりけるすゑなど
もいとゝ。ぬかにうつくしけなり。こ

まとて　もとひとりどちぬまつり。
くれがたまそうづりのしまつり。あお
りてひしひしつくひくゝ丸なるかし（浮）
らつれども。りちがひさらぎくるも。
例よりりていと（浮）おそろし。此ぬち
す。母の（浮）にくに来りまて。いふ（何）そ
月ばたなどいふ。ひんがし。此（浮）にくる
おまうでしまよきことゝのおも
きし人（浮）いなをおしまやなどとひ
なふ。志（浮）ろくよと御りてなん。ぬち（浮）あ
しとこそ。おしまくいむことけ
なんとのまつるとかる。こちて（浮）
なくにいまして。こゝまやおります
とて。本様のりとにつゐまへだつま（浮）
しなれどぬざりよりていくへし給。
ふいまくこんなりそめてしも。さるべき



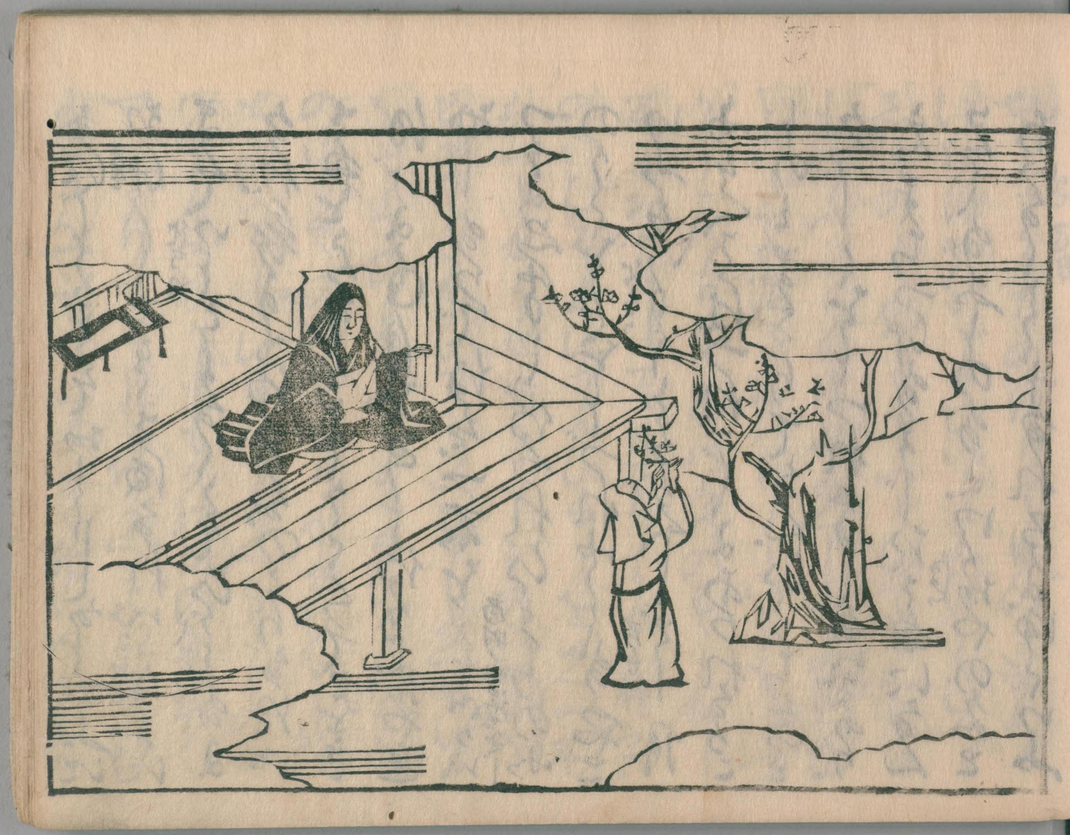
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

げまなん侍し。なまびとにて侍りけんと。
おもくいふ侍ばかりてかくりつゞけ
給へば。いかぐさる所によき人をも
とりもていたれん。さりとも今いたし
られぬんなどは宰相の気ぞとふ。
たしぎさりやうらひ侍らん。後ことに
やむごとなき人ならば。たゞふかかれ
侍しじとや。のゆゝ人のむすめもさる
さまにしるこそいと侍らめ。つゝう中
より。伝ひきれなりずいとて侍らめ。
こゝ人にてさつゝうろきさ海の人
なん侍りけるなどゆえなそのほ
かのけうりにさしうせまうん人を
そえしいづこの浮まへなる人もおぬ恐
のつゝへにあやしくてうをこる人
とさきさきとさこれば。それなやあん

といふひとれど。さぐめなれことなり。
侍ばかりかる人。世にあるものにたし
れじと。よくもあらぬかくさぐち
こる人もあるやうにおもむけて。
うしあひ侍るをことのさ風にあや
しくれぞ。けつし侍るなりとなん
がうすくしたなれどひとまもかくこ
ず。宰相それにもこそあれ。たゞ
きかせばやとこの人にそのなれ
ど。いづかくにもかくすべたことをさぐ
めてさなんともたしぎなりしたづ
かしげなる人にうちむのなりをんも
つましくおぼしてやみにけり。
姫女をこゝりいてさせまてそうづ
ものぼりぬかしこによりなへれぞ。
いとじくうしみてなかくかる所

おさまりたるもまた多かれど
いとうとからず すべてくらぶまの
のやうにくよくすてられてやと
うんこりてのみまされどおのづから
ゆくゑもしらずなれりのそのくさぐさ
ーこれもこのいろいろのそ
のちより すこしれぐさりて
居ぬといふをきゝつけてなほ
ゐるにやそのよりくるりつゝ
そしりめきのこと
こゝろわるきものとおもひたる
さうりてはえ
らぬものゝ
ふうくうりつゝ



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

さぬ給ふ。うんしやうをそくいでうあるのつぼねくやあやしやこんとつてまいりてをくよむうひてあるつぼねのうへひとつのくちのいしすあいふうりとこしをもうとはのかのくいづれそこのおのおのうちのそうりでぬしくそもりてのうりくるをいくしくるしのうりてものくいくしうれたりくしまのまうしまうしのつぼねうちそうなどうわうのそうしくるうりけるうみてまるがおそうしき給ふくやうのおうこうふくしうもるけるこのすいふいてうれいかうしたまうて

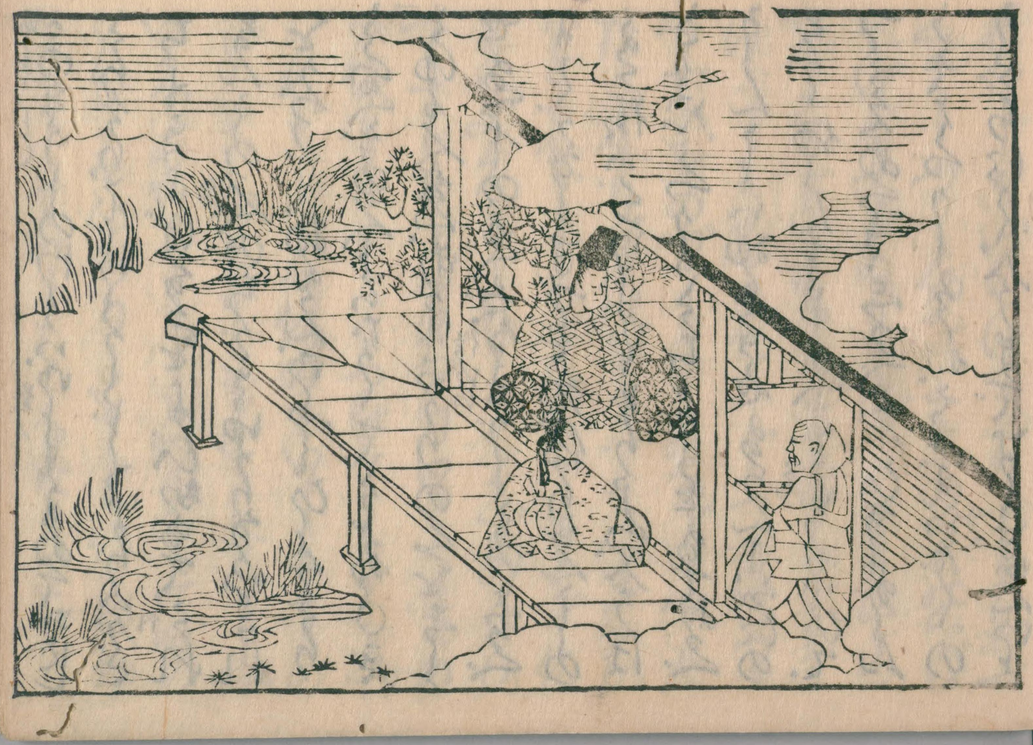
のそくいくしくるそれなうへのりのひてをよさけのうへ一人いびもそうめるかたいかうちそうくいてぐたあいすくうけまでにそぐもうるいくあるうにおのうへのうへのうへ

えすゝしびあひじと思ひゐるとこゝに今
の世はこのゐどうぞめでたくれあるる
たのおほいなるとのおへにぞそまいらく
ちもいとうるはしうさきらに思う
ひくすてさはことなるさ海ぞ思ふ
[illegible]ぞいとゝしくあはれとも
[illegible]なれつゝさつにやとすん
おぼしけるなどとくこゝんやうよ
いひつゝ[illegible]おしくもきく
[illegible]のうへもこの世のことに[illegible]
[illegible]ことなくうりとさて
[illegible]れあはねそいと[illegible]
[illegible]のゐんにおはす
としいひつゝれど中ゝいふひ
なさゝ海とこゝ[illegible]なんに
るといとつましくぞありける[illegible]の

人のいひつけしことなどそめいそ
ぐとこゝろまつけても[illegible]おもしくめづ
らかなる心ちすれどかけてもいひ出
られずこゝちぬひなどするとこれは
らんじいれよゐといとうつくし
ひゆゑ世なへでとてこゝろちきれひと
なるとうたておぼゆれど[illegible]ちあ
しとてもあれずあしあり
あまごいそぐことをうちすてく
いくおぼさるなどこゝろにおぼ
おさへしのとりのうちはきね
て[illegible]おまへにおはするとこそなしとぞ
[illegible]れおさましはすとぞあり
やといふ人あり
ほ　あまごかれ[illegible]やありし世
のうちの[illegible]をかけて[illegible]

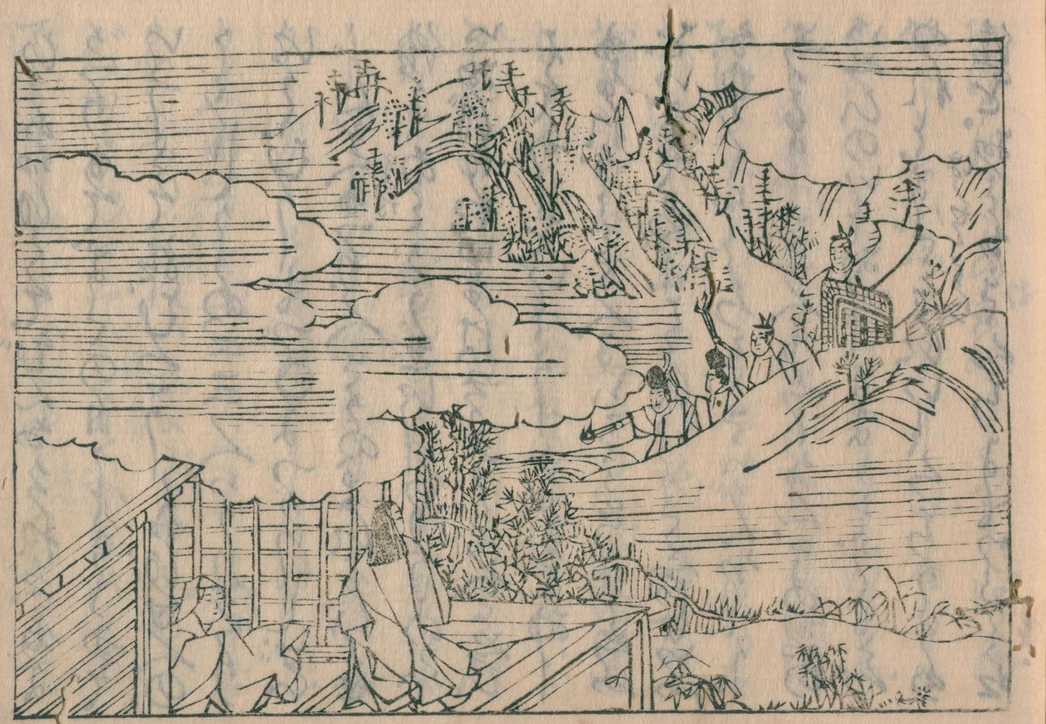
うえてゐ(ひ)たりしくるしもなりしのんのちよゝのことなどいふついでにかのおやのこゝろをおもひやりてこゝにまでたづねまうでくるこゝろざしのあはれさをいひつゞけるでやどりのこと(ね)ども
えゝしくいとをかしくかきつゞけたりよるのおとゞのおぼしたる(尼君の女)
とをいふにしるしとてかのおやのかきおきしふみどもをとりいでたるにいとゞかなしくおもひまどはれてなみだをもよほしつゝ
ひとりいりゐてかきくらしふりつゞくころのつれ〴〵をいとゞながめくらしてかくいふ
ふるさとをこひつゝながめくらすまにまつにもあらぬ秋のかぜかな
とひとりごちてなをいづこをあてどにかはとおもひやるにもいとかなしくてかくいふ
ふるさとをこひつゝながめくらすまにまつにもあらぬ秋のかぜかな
とひとりごちてなをいづこをあてどにかはとおもひやるにもいとかなしくてかくいふ
そこにてぞよるのおとゞもいとゞおぼしめぐらすことおほかりけりかのおやのかきおきしふみどもをとりいでゝみたまふにかのおやのかきおきしふみどもをとりいでゝみたまふにかのおやのかきおきしふみどもをとりいでゝみたまふに

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

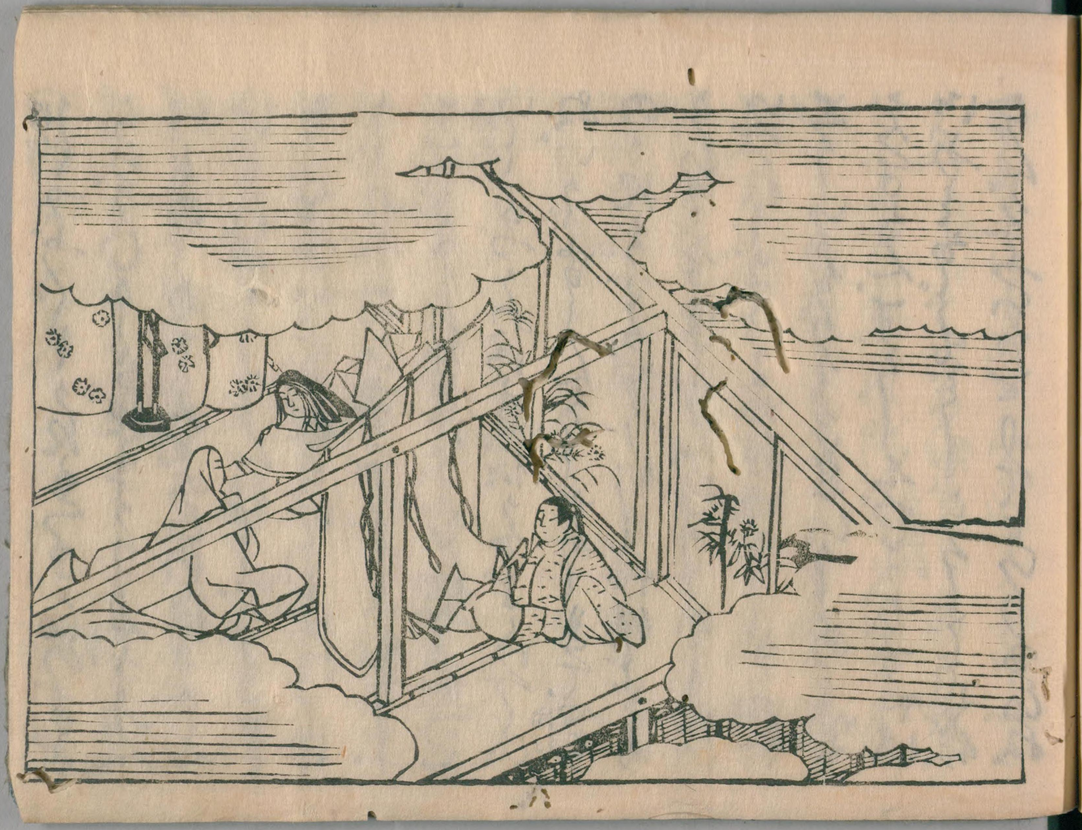
ガラス使用

おぼろき侍いかゞはせん。もとのゆちに
まりあやまちありで。あいさうれは
ことをとるかしゆゑ。一日のまけ
のくどくいたりなれのなれば。
よのませまへとなん。ことくまいらづら
さふらひ。口侍らん。うつぐこの小
ぎゆゑまてひとりいたり。まづ心ぐ
もあらずかさあさらめまへれど。こ
と人はんりてず。この君はこれなり
おもすらん。おいとんうし。今さへ
しあながちにいづてさせまとせ
められて。すこしはぎ面まひさて
ミまへだ。このまは今いと言をいひ
なりしタぞれまもいと忘しく
思ひし人ぬかり。おなじ所まて見
しほどいへてさかなくあやかくよ

をぞりてかくりしかど。母のいとか
しくして。うぢにも叶ぐぬておい
せしかば。すこしをよすけしまく
にかくこに思りしいたいを思ひ
おるまも夢のやうなり。まづ母乃
よまれいとこたまほしくこゝろ
のうへをのづからやうしくさけど。
おや乃おもなしんやうは。かのうにも
えさかずかしと。かしこれをこるに
いとかなしくて。かろくとなかれぬ。
いと（見方心）おかしげまく。すこしう然見て
まつるんかもすれば。（行）いとうしにそ
おかすめれ。なしまほしくおがす
こともあらん。うちよいれなしんと
いふを。行（淳）いまは言よあるおとも
やんざらんよ。あやしなさ面よおもか

ひくさせ申しあひてんや。後よりこれ
あしじ。なのめよりうつぐ志さはなど
まもおとしまさずなど。いひさえ
ぞそ。其よ志らずんづよくおります
ことぞと。こないひわりせく。もやはさ
いよ。あてこそしいまてり。けなもさ
た。（深と）さくつれど。おさなかれば。ふとはひ
よりんもつまし。かれど。まく侍は
文いうぐなんそうづのはしるべ
まいこしうるとうく。見来なく侍
えそ。ふ。めまくいつぐ。そじやあ
なうつうなどいひこ。はふこはん
まづき人た。こんものさせなり。
げそうの人なんいるうことにて。
ゆえんぐこく侍るを。なをのないせよ。
おさなさはほどなれど。かるた

志るべよこのこゆしなやうもあらん
など。いつぐ。おほしつぐて。おぼく
志くもてなさせなまい。行ずをり
ゆし侍らん。うとく。見しなりよ
かれぞ。ゆゆべきことも侍らず。こぐ
このはふこを。人づくなるでなれ
とて侍りつる。いうぐ。なんといへぞ。
いとこと（たえ向）いかなり。おいとうそ
なおもせて。さすがにむくつけき
はんはそと。ゆしうごうして。おす
のりとまをしよせなりこれば。あれ（深）
ふもあらぐぬなつるけらひと人よ
たはぬんちまれだ。そこりとによりて
なりつ。はかつりとくなりてまいりん。
とうくうとく志きをんうしと志ひて
ゆえぐ。あさ。見はふこひきとはこ



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

なくしたひ侍る。日ごとも心ちう所なる
をやませなめるを。いとゞかなることに
よそへしみざるまやつねよりも物
おぼしさせなりぬさまなくなんと
ゆゑ。不よつけておかしきあるじ
などしたれど。おさなきこゝちに。そ
こゝろとなくありてゝるゝ所して。
ざとなれさせなるしるしに。伝ずを
かいゆくさきんとすらん。そこ一とを
のなりせらかしなどいへば。げよなど
いひさゝかくなんとうつしかたれども。
物(汚)ものなんだかひなくて。そこかく
おぼつかなれば。まさ様を。なくさせ
なべきなめり。やれなるかなべ
うゝぬれしまも侍めるを。山風ふく
そも。まさもかなしくぞ所なし。

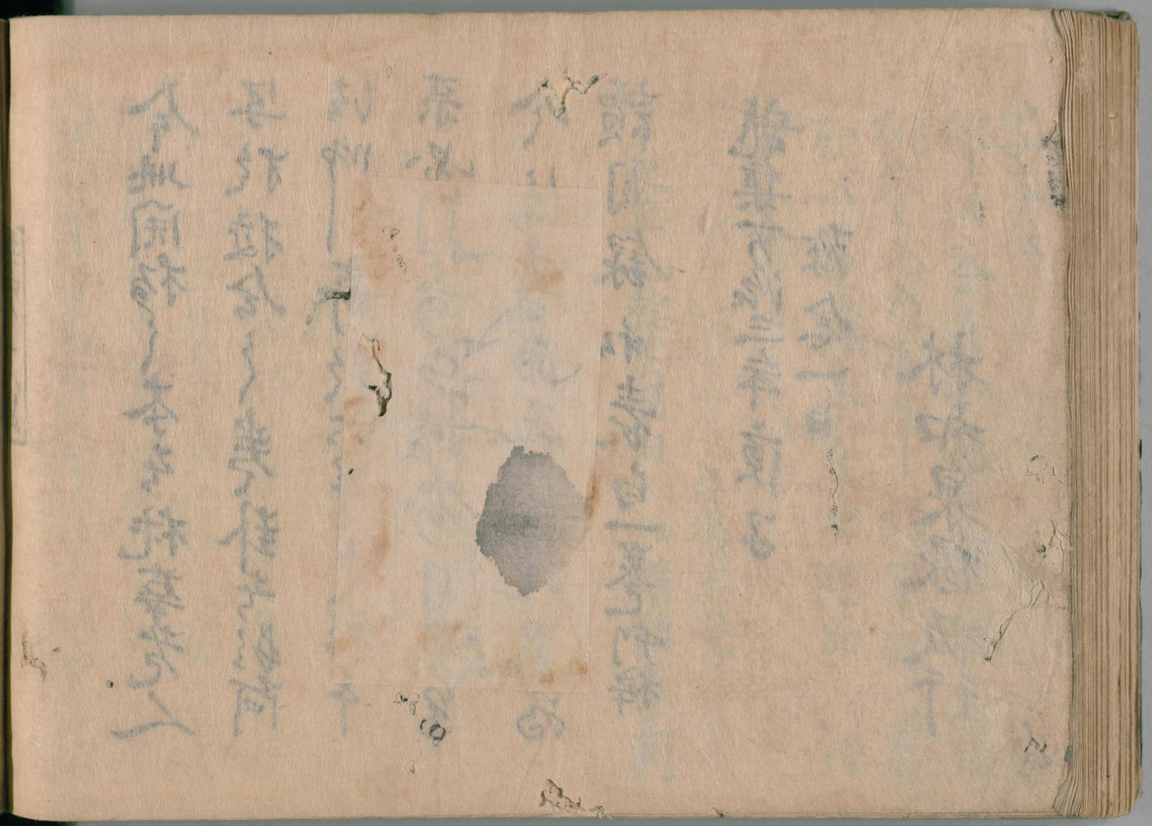
なんかしといへば。すゞろよねぐさん
もあやしかるべかれぞ。かつりなんとす
人しれずゆかしれば。ありさまをも
えしらずなりめるを。そんなかくらち
おしくて。心ゆかずながらまいりぬ。
いつしかとまゐおもしするよ。かく
たどくしたてかつりきこれば。すき
まじくなかしなりと。おぼすこ
とさまぐにゝく。人のかくしすべる
まやあらんと。わかれ心れしひまぬ
くさなくおとしをさまつりし
なりひにもぞ。(なよ侍めるイ)

写本云
抑此本者以後崇光院宸翰
桃巻入之者歟下詞再治之者也
尤以為證本者也惣而八種
吳本者之
台嶺末学
永正元稔七月日　權僧正在判

今此開板之本者桃華老人
写於校会之巻卦者如阿
法師寄於六半之形平
系必引寄之路者目東寄
於源書而為善乱畧為
讀目録　私表白一巻刊梓
龍集一万治三年庚子
除念一日
林和泉掾板行

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

856
10



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用